

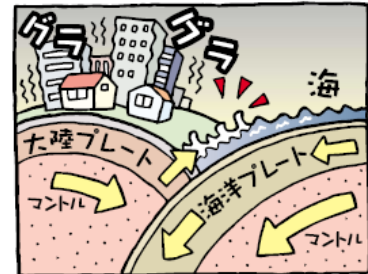
2 海溝型の地震

海溝型地震とは、海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込み続けているために、ひずみが限界に達したとき大陸プレートが跳ね上がって起こる地震です。

東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）、東南海・南海地震がその代表例です。

（特徴）

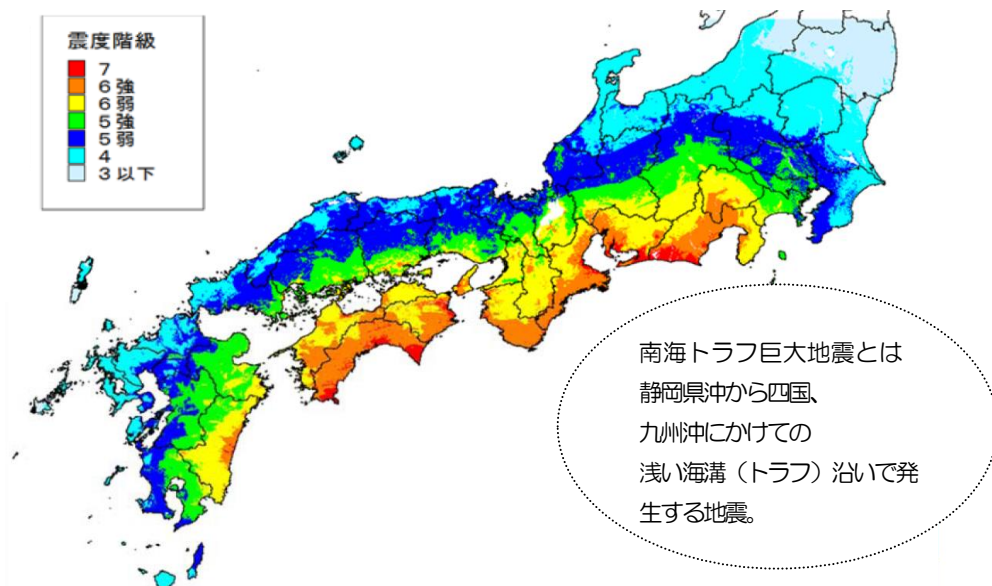
- 揺れている時間が長い（1 分以上）
- 津波が襲ってくる可能性が高い
- 数十年から 100 年程度の間隔で発生する



（1）今後、発生が想定される地震

今後、発生が想定される海溝型の地震としては、南海トラフの地震があります。今後 30 年以内に発生する確率は、70%程度と予想されています。

〔南海トラフ巨大地震による最大震度分布〕



※海溝である「南海トラフ」で起こる地震は、津波が発生するおそれがあります。
※南海トラフ以外の太平洋で起こる地震により、ゆれ、津波が大阪にも影響することがあります。

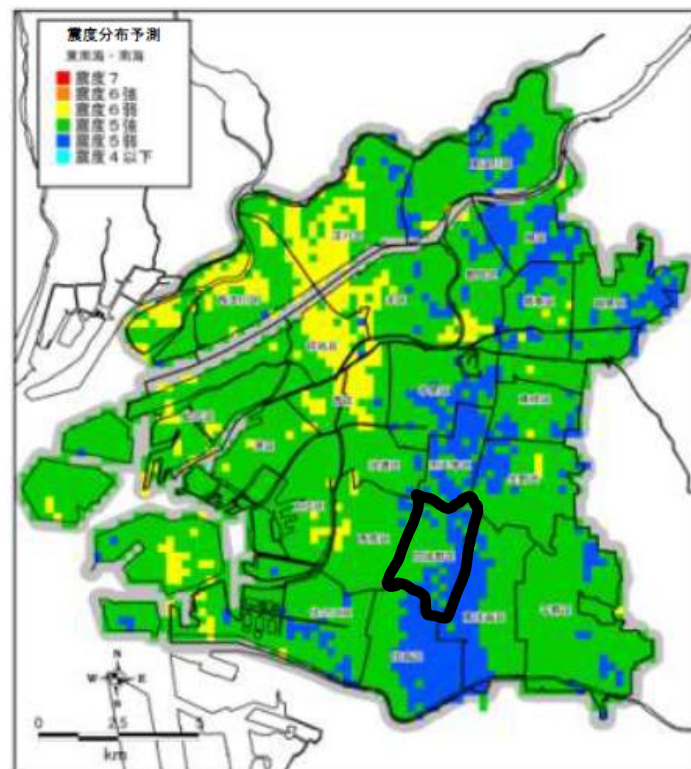
- 例： ①東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）（2011 年 3 月 11 日）
大阪市域の震度 2 ～ 3、大阪府沿岸に津波注意報
②チリ中部沿岸地震（2010 年 2 月 27 日発生）
大阪府沿岸に津波注意報（2010 年 2 月 28 日）

(2) 阿倍野区における被害想定

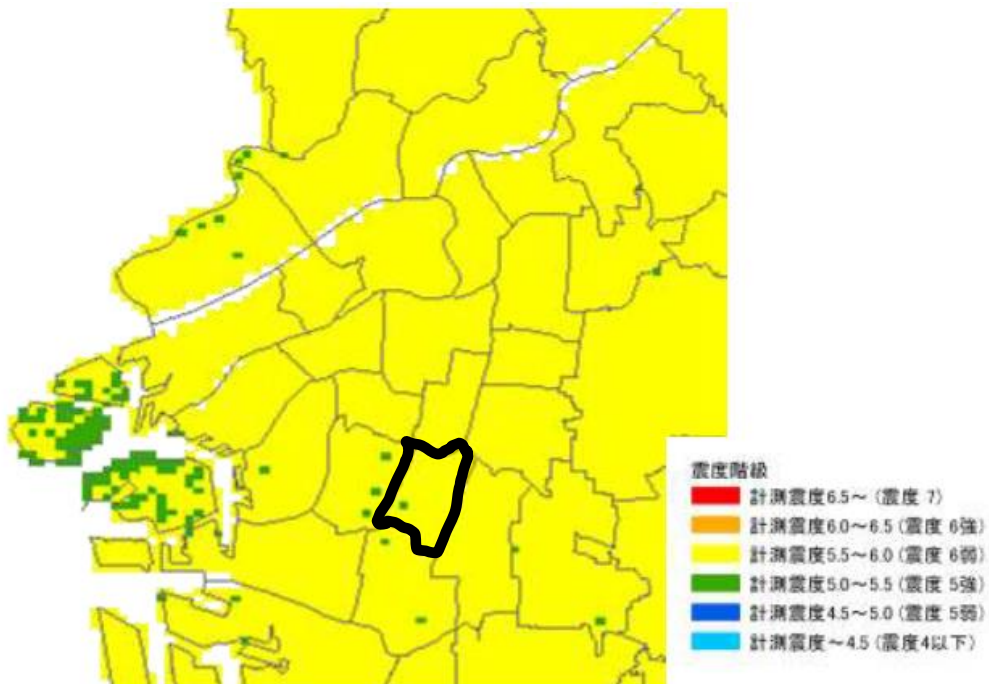
阿倍野区において想定される海溝型地震の被害想定

地震の 名称	地震規模	阿倍野区において想定される被害等				
		最大震度	津波浸水 面積	死者数 (人)	建物の 全半壊(棟)	避難者 想定数 (人)
東南海・ 南海地震	マグニチュード 7.9～8.6	6 弱	0	0	399	379
南海トラフ 巨大地震	マグニチュード 9.0	6 弱	0	8	4,581	16,992

①東南海・南海地震の震度分布



②南海トラフ巨大地震の震度分布



※死者数、建物の全半壊については、平成19年大阪府自然災害総合防災対策検討委員会より

(3) 津波の浸水予測

海溝である南海トラフで起こる地震では、津波が発生するおそれがありますが、阿倍野区では、津波による直接の被害はないとされています。

大阪市海岸付近の津波到達時間は、早いところで**110分**、大阪湾が満潮のときに津波が来ると、大阪市海岸付近で、場所によっては**6m**を超える津波になると想定されています。

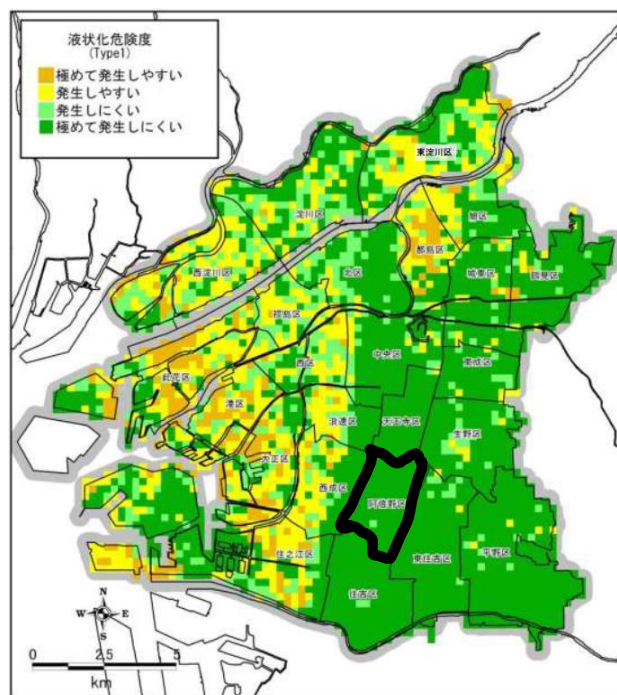


阿倍野区は、
津波の被害は
想定されていません。

(4) 液状化の予測

本市域の地層、地下水位及び旧地形をもとに液状化の発生を予測した結果は右図のとおりです。

阿倍野区は、
ほぼ全域にわたり
極めて液状化しにく
いとされています。



もっと詳しく知りたいという方は、
インターネットで次のサイトをご覧ください。
マップナビおおさか

(<http://www.mapnavi.city.osaka.lg.jp/webgis/index.html>)

【参考】大阪市内における地震被害想定

本市域における地震による被害の想定は次のとおり。

項 目			大阪市域への影響が考えられる地震					
			内陸活断層による地震				海溝型(プレート・境界)の地震	
			上町断層帯 地震	生駒断層帯 地震	有馬高槻 断層帯地震	中央構造線 断層帯地震	東南海・ 南海地震	南海トラフ 巨大地震
地震規模(マグニチュード) 発生確率 注2)			7.5～7.8 2～3%	7.3～7.7 0～0.1%	7.3～7.7 0～0.03%	7.7～8.1 0.06～14%	7.9～8.6 70%	9.0～9.1 70%
震度			5強～7	5弱～6強	5弱～6弱	4～5強	5弱～6弱	5強～6弱
建物被害		全壊棟数	166,800	62,800	4,700	700	8,500	78,900
		木造	145,700	58,200	4,400	600	8,000	71,100
		非木造	21,100	4,600	300	100	500	7,800
		半壊棟数	109,900	72,300	9,700	1,700	17,700	217,100
		木造	82,200	59,700	8,400	1,400	15,200	164,900
		非木造	27,700	12,600	1,300	300	2,500	52,200
火 災 注3)	炎上 出火	1 日	325 件	81 件	4 件	0	6 件	—
		1 時間	162 件	41 件	2 件	0	3 件	—
		残火災	6 件 注4)	0	0	0	0	—
ライフライン被害	電力	停電率 (停電軒数)	約 64% (約 983 千軒)	約 7% (約 105 千軒)	約 1% (約 10 千軒)	約 0.1% (約 1 千軒)	約 2% (約 26 千軒)	約 55% (約 807 千軒)
		復旧期間	約 1 週間	約 6 日	約 2 日	約 1 日	約 1 日	約 1 週間
	ガス	ガス供給停止率 (供給停止戸数)	約 81% (1,195 千戸)	約 32% (475 千戸)	0% (0)	0% (0)	0% (0)	約 53% (約 704 千戸)
		復旧期間	約 2～3 ヶ月	約 0.5～1.5 ヶ月	約 0.5～1 ヶ月	約 2 週間	—	約 1 ヶ月 注5)
	水道	水道断水率 (断水人口)	約 77% (2,075 千人)	約 68% (1,906 千人)	約 20% (628 千人)	約 4% (123 千人)	約 13% (386 千人)	51% (1,400 千人)
		復旧期間	約 1 ヶ月	約 1 ヶ月	約 2 週間	約 1 週間	約 1 週間	約 40 日後
	下水道	下水道機能支障率 (断水人口)	—	—	—	—	—	約 5.4% (144 千人)
		復旧機関	—	—	—	—	—	約 1 週間
	電話	固定電話不通率 (不通加入者数)	約 13% (約 525 千回線)	約 2% (約 64 千回線)	約 0.9% (約 35 千回線)	約 0.2% (約 9 千回線)	0% (0)	約 48% (約 533 万回線)
		復旧期間	約 2 週間	約 2 週間	約 2 週間	約 5 日	—	約 1 ヶ月
人的 被害	死者		8,500 人	1,400 人	～100 人	0	～100 人	119,565 人
	負傷者		41,000 人	37,800 人	6,100 人	900 人	10,300 人	53,313 人
避難所生活者			343,500 人	148,300 人	16,000 人	3,000 人	28,300 人	821,191 人

注1) 上表の数字は、概ね、大阪府自然災害総合防災対策検討委員会（平成17年度、18年度）における考え方に基づくもので、大阪市内における数値を抜粋したものである。

なお、南海トラフ巨大地震に係る数値については、「大阪府防災会議 南海トラフ巨大地震被害想定等検討部会（平成25年度）」における考え方に基づくもので、大阪市内における数値を抜粋したものである。

注2) 発生確率（今後30年以内）は、文部科学省所管の地震調査研究推進本部による平成24年1月1日を算定基準日とした評価である（平成24年1月11日現在）。

注3) 火災は、冬季夕刻・風速5.3m/sで想定した。
「炎上出火」は、地震後に火災のうち、隣人等による初期消火活動で消火できずに残った火災であり、
「残火災」は、炎上出火（1時間）のうち、大規模地震下で自主防災組織が機能しなかった場合を想定し自主防災組織の活動を考慮せず、公設消防のみの消火活動で消火できずに残った火災である。

注4) 自主防災組織が公設消防と協同して消火活動した場合の想定は0件である。

注5) ガスにおける復旧期間は供給停止戸数より全半壊戸数を除いた戸数を対象としている。

3 地震と揺れの状況



0

【震度0】人は揺れを感じない。



1

【震度1】屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。



2

【震度2】屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。



3

【震度3】屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。



4

【震度4】

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。



6弱

【震度6弱】

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。




耐震性が高い 耐震性が低い



5弱

【震度5弱】

- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。



6強

【震度6強】

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。




耐震性が高い 耐震性が低い



5強

【震度5強】

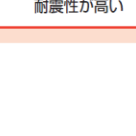
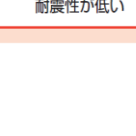
- 物につかまらなさと歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。



7

【震度7】

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

耐震性が高い 耐震性が低い